

# 平成30年度 学生市民等協働プログラム 概要

部局名 教育学部

区分	内容
事業名	若者アートカルチャーを発信する弘前文化地域の創造のための台湾（文創）の調査研究
指導教員	① 教育学部 佐藤光輝 ② 教育学部 塚本悦雄
学生市民等の所属及び人員	教育学部 4年生 2名 弘南鉄道株式会社 職員 1名 教育学研究科 修士2年 3名 弘前市 職員 1名
渡航先 (渡航期間)	台湾（平成30年8月26日～平成30年8月31日）
実施 スケジュール	平成30年 8月20日～ 事前調査 " 8月26日 渡航 " 8月27日 松山文創園区調査 " 8月28日 ローカル鉄道平溪線調査 " 8月29日 華山1914文創園区調査 " 8月30日 台北国際芸術村調査 " 8月31日 帰国 " 9月 3日～ 調査結果まとめ、展示物制作 " 11月16日～ 調査報告展示会開催
プログラムの概要	<p>1. 目的： 台湾の文化創造地区（文創）をモデルとした、市民と学生がアートを親しみ、活動を発信する文化地域を弘前市に創造する。</p> <p>2. 事業概要： 台北市の遊休建築物リノベーション活用実態を調査し、弘前版（文創）を「ギャラリーまんなか」において実践する。</p> <p>3. 教育目標： 大学生が市民・企業と一緒にこれまでの展開してきた地域レベルでの芸術活動に広い視野を持たせる。 台湾の美術関係者とのネットワークづくり、情報交換、ギャラリーでの合同作品発表等の活動をとおして、地域から国内外へ発信する意識を高める。</p> <p>4. 期待される成果等： 赤レンガ倉庫の芸術文化施設化に伴い、市民と学生による若者文化を発進するアート活動と連携した地域づくりを実現する。</p> <p>5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあたえる効果・成果等： 地元企業や地域遊休資産を活用した大学生と市民が創り出すアートカルチャーは、弘前市においても台湾文化創造地区（文創）と同様な地域活性効果をもたらすことが期待できる。</p>

プログラムの様子



【文創地域の調査（松山文創園區）】



【文創地域の調査（剝皮寮歴史街区）】



【文創地域の調査（URS127玩芸工場）】



【ローカル鉄道平溪線の調査】



【台湾調査成果報告展：ギャラリーまんなか】



【台湾調査成果報告展の展示風景】

今後の展望

城下町の弘前市は、貴重な文化遺産も多く残され、昔の面影を残している美しい街である。明治大正期の西洋建築が佇み融合している街並みは魅力があり、国内外からの観光資源となっている。芸術においても独特で魅力的な地域伝統工芸があり、著名な芸術家も多く輩出している。市出身の芸術家がおこなった赤レンガ倉庫での展覧会の成功もあり、アートのポテンシャル（潜在力）が極めて高いといえる。

本事業では、学生と市民によるチーム活動によって、台湾台北市での文化創造地区（文創）とその周辺地域の調査を実施した。日本統治時代に残された建物をリノベーションして、地域の魅力的なアートデザインとして活用する文創の手法は、弘前市においても可能であると感じた。さらに市内ギャラリーにおいて本調査の成果を芸術作品として制作し、広く社会へ発信することができた。

本事業の成功を引き継いで、弘前市における芸術教育や制作活動の活性化を促し、若者カルチャーの成長と地域への定着を進展させることを今後の展望としたい。